



2026年12月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年7月28日

上場会社名 株式会社 不二家
コード番号 2211 URL <https://www.fujiya-peko.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 宣行
問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 総務人事本部長 (氏名) 佐野 正樹
半期報告書提出予定日 2026年8月6日
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-5978-8100

(百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第2四半期(中間期)の連結業績(2026年1月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期中間期	59,410	4.8	297	△75.3	458	△73.1	△74	—
2025年12月期中間期	56,686	6.6	1,202	10.5	1,706	3.3	836	△1.4

(注) 包括利益 2026年12月期中間期 614百万円 (137.0%) 2025年12月期中間期 259百万円 (△88.1%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期中間期	△2.89	—
2025年12月期中間期	32.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期中間期	101,846	65,486	58.7
2025年12月期	106,366	66,104	57.0

(参考) 自己資本 2026年12月期中間期 59,762百万円 2025年12月期 60,634百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2026年12月期	—	0.00	—	—	—
2026年12月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年12月期の連結業績予想(2026年1月1日～2026年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	125,000	4.6	3,200	12.6	3,650	1.1	2,100	3.4	81.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年12月期中間期	25,784,659 株	2025年12月期	25,784,659 株
2026年12月期中間期	9,157 株	2025年12月期	9,053 株
2026年12月期中間期	25,775,548 株	2025年12月期中間期	25,775,617 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間(2026年1月1日～6月30日)におけるわが国の経済は、中東情勢の影響を注視する必要があるものの、雇用・所得環境の改善等により景気は緩やかに回復しております。その一方で、食品業界においては、原材料価格の高騰や物流費の上昇に加え、値上げに対する消費者の節約志向の高まりにより、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況下にあつて当社グループは、お客様により良い商品と最善のサービスの提供を心掛け、売上と利益の確保につとめてまいりました。その結果、当中間連結会計期間の売上高は594億10百万円(対前年同期比104.8%)となりました。一方、利益面では、製品規格や価格の見直し、効率のよい生産ラインの活用など生産性向上をはかつてまいりましたが、原材料コスト等の上昇分や新規設備投資による減価償却費を吸収するまでには至らず、営業利益は2億97百万円(対前年同期比24.7%)、経常利益は4億58百万円(対前年同期比26.9%)、親会社株主に帰属する中間純損失は74百万円(前年同期は8億36百万円の親会社株主に帰属する中間純利益)となりました。

なお、当中間連結会計期間の期首から、不二家ベトナムCo.,Ltd.を持分法適用関連会社としております。

当社グループのセグメントの概況は次のとおりであります。

		当中間連結会計期間		前中間連結会計期間		対前年 同期比	増減
		2026年 1 月 1日から 2026年 6 月30日まで		2025年 1 月 1日から 2025年 6 月30日まで			
		売上高	構成比	売上高	構成比		
洋菓子事業		百万円	%	百万円	%	%	百万円
	洋菓子	11,735	19.8	12,389	21.8	94.7	△654
	レストラン	2,931	4.9	3,037	5.4	96.5	△105
	計	14,667	24.7	15,426	27.2	95.1	△759
製菓事業	菓 子	40,008	67.3	37,483	66.1	106.7	2,525
	飲 料	2,932	5.0	1,951	3.5	150.3	981
	計	42,941	72.3	39,434	69.6	108.9	3,506
	その他	1,801	3.0	1,825	3.2	98.7	△23
合 計		59,410	100.0	56,686	100.0	104.8	2,723

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

<洋菓子事業>

当社単体の洋菓子事業においては、本年に入り節約志向がよりいっそう高まる中、洋菓子チェーン店では来店客数の伸び悩みが大きな課題となりました。そのような中、4月には、「新生活スイーツ応援」と称した「プレミアムショートケーキ」等の販売促進や、お手頃な価格帯の「エブリデーリーズナブルプライス」商品の展開など、買い求めやすい商品の充実をはかりました。6月には、軽やかなくちどけの「不二家の生ドーナツ」の試食販売や、ミルキー75周年を記念した週末限定の「milky75thミルキーシュークリーム」等の新商品の発売により、客数の回復を目指しました。新業態店舗「ペコちゃんmilkyドーナツ」及び「ペコちゃんmilkyタイム」では、積極的な出店を進めた結果、店舗数は23店(当中間連結会計期間における新規出店は9店)となり、新規顧客の獲得につとめました。同時点における不二家洋菓子店の営業店舗数は821店(前年同期差44店減)となっております。なお、工場においては、生産効率の高いラインの集中稼働及び人員配置の見直し等により、生産性向上をはかっております。

広域流通企業との取り組みについては、コンビニエンスストア向けに生産性の高い製造ラインを活用した商品を積極的に提案したほか、既存取引先への積極的な製品提案及び新規取引先拡大による販路開拓を進めております。なお、海外輸出においては北米における新規商品を販売し、さらなる売上向上につとめました。

しかしながら、5月までの来店客数の低迷及び店舗数減等の影響により、単体の洋菓子事業の売上は、前年同期の実績を下回りました。現在、買い求めやすい価格帯商品の投入効果もあり、来店客数・売上ともに回復基調にあります。

レストラン事業では、原材料価格等の高騰への対応として、メニュー改善及び価格の一部見直しや、洋菓子店舗と連動した売場づくりを実施しましたが、不採算店舗の閉鎖もあり、売上は前年同期の実績を下回りました。

以上の結果、当中間連結会計期間における洋菓子事業全体の売上高は、146億67百万円(対前年同期比95.1%)となりました。利益面では、一部商品について規格及び価格の見直しを実施したほか、生産性の向上により、増益となりました。

<製菓事業>

当社単体の菓子事業においては、原材料価格の上昇によるコスト増が課題となっております。そのような中、『カントリーマム』については、4月は人気キャラクターとのコラボ商品を、6月は季節限定商品として厳選素材を使用した「カントリーマム(夕張メロンソフト)」「カントリーマム(森のサファイアブルーベリー)」を発売し、売上に寄与いたしました。また、『ホームパイ』については、テレビスポットを実施したほか、「ホームサクッと」の販売によるおつまみ市場への進出により、新規顧客の獲得につとめました。発売75周年を迎えた『ミルキー』については、新キャラクター『ペコちゃんボコちゃんとゆかいな仲間たち』をテーマとした売場の展開やイベントショップの出店等により話題の喚起をはかりました。加えて、新規設備を活用したグミ製品の発売により、さらなる収益基盤の拡充をはかっております。

上記の結果、単体の菓子事業の売上は、前年同期の実績を上回りました。

飲料事業では、富士裾野工場において製造している天然水の販売を開始したほか、『ペコちゃんのグルメ旅』シリーズとして「アジア編台湾ライチソーダ」を発売し、売上は前年同期の実績を上回りました。

不二家(杭州)食品有限公司においては、中国国内の景気低迷の影響を受けたものの、ECチャネル等での販売が堅調に推移し、売上は前年同期の実績を上回りました。

以上の結果、当中間連結会計期間における製菓事業全体の売上高は429億41百万円(対前年同期比108.9%)となりました。利益面では、製品規格及び価格の見直しや省人化など生産性向上をはかってまいりましたが、カカオ豆や油脂を中心とした原材料コスト等の上昇分やグミ及び天然水の新規設備投資による減価償却費を吸収するまでには至らず、減益となりました。引き続き、原材料費高騰対策として大袋商品のパッケージの色数削減や、生産ライン強化による生産性向上により、収益性の改善につとめてまいります。

<その他>

キャラクターグッズ販売事業、ライセンス事業、不動産賃貸事業及び㈱不二家システムセンターのデータ入力サービスなどの事務受託業務の売上高は18億1百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

流動資産は369億88百万円で、主に売掛金の減により前連結会計年度末に比べ59億31百万円減少いたしました。固定資産は648億57百万円で、主に有形固定資産の増により、前連結会計年度末に比べ14億11百万円の増加となりました。

この結果、総資産は1,018億46百万円で前連結会計年度末に比べ45億19百万円減少いたしました。

また、流動負債は190億98百万円で、主に支払手形及び買掛金や返金負債の減により前連結会計年度末に比べ40億24百万円減少いたしました。固定負債は172億61百万円で、主に退職給付に係る負債の増により前連結会計年度末に比べ1億22百万円増加いたしました。

この結果、負債は合計363億60百万円で、前連結会計年度末に比べ39億1百万円減少いたしました。

純資産は654億86百万円で、主に利益剰余金の減により前連結会計年度末に比べ6億18百万円減少となりました。

次に、当中間連結会計期間のキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、63億75百万円（前年同期は64億68百万円の獲得）となりました。これは主に売上債権の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、56億69百万円（前年同期は61億24百万円の使用）となりました。これは主に固定資産の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、10億50百万円（前年同期は28億96百万円の獲得）となりました。これは主に配当金の支払いによるものであります。

以上の結果、当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、106億70百万円となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期の業績予想につきましては、2026年2月10日に発表した予想の変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,318	12,710
売掛金	19,580	11,991
商品及び製品	4,630	5,047
仕掛品	618	769
原材料及び貯蔵品	4,676	5,625
その他	1,270	1,009
貸倒引当金	△175	△165
流動資産合計	42,920	36,988
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	15,372	16,424
機械装置及び運搬具(純額)	17,719	19,089
土地	7,598	8,175
リース資産(純額)	967	972
その他(純額)	3,803	2,300
有形固定資産合計	45,461	46,962
無形固定資産		
その他	1,540	1,557
無形固定資産合計	1,540	1,557
投資その他の資産		
投資有価証券	7,549	7,635
繰延税金資産	927	1,144
敷金及び保証金	1,985	1,991
退職給付に係る資産	1,322	1,339
その他	4,778	4,367
貸倒引当金	△120	△140
投資その他の資産合計	16,444	16,337
固定資産合計	63,446	64,857
資産合計	106,366	101,846

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,355	6,880
短期借入金	960	950
リース債務	204	221
未払金	3,993	3,333
返金負債	2,945	2,253
未払法人税等	914	479
賞与引当金	534	598
その他	5,216	4,382
流動負債合計	23,123	19,098
固定負債		
長期借入金	15,000	15,000
リース債務	629	626
繰延税金負債	336	364
退職給付に係る負債	292	409
役員退職慰労引当金	74	76
その他	804	784
固定負債合計	17,138	17,261
負債合計	40,261	36,360
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,280	18,280
資本剰余金	4,060	4,060
利益剰余金	33,598	32,447
自己株式	△17	△18
株主資本合計	55,920	54,769
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	545	418
繰延ヘッジ損益	2	1
為替換算調整勘定	2,241	2,781
退職給付に係る調整累計額	1,922	1,791
その他の包括利益累計額合計	4,713	4,993
非支配株主持分	5,470	5,723
純資産合計	66,104	65,486
負債純資産合計	106,366	101,846

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
売上高	56,686	59,410
売上原価	38,011	41,399
売上総利益	18,675	18,010
販売費及び一般管理費	17,472	17,713
営業利益	1,202	297
営業外収益		
受取利息	33	39
受取配当金	65	40
持分法による投資利益	417	180
その他	99	75
営業外収益合計	616	335
営業外費用		
支払利息	31	142
支払手数料	19	—
為替差損	44	—
その他	17	31
営業外費用合計	112	174
経常利益	1,706	458
特別利益		
固定資産売却益	2	—
投資有価証券売却益	12	—
関係会社株式売却益	282	—
特別利益合計	297	—
特別損失		
固定資産売却損	27	—
固定資産廃棄損	159	48
支払補償費	121	—
その他	40	—
特別損失合計	348	48
税金等調整前中間純利益	1,654	409
法人税、住民税及び事業税	689	357
法人税等調整額	△64	△47
法人税等合計	625	309
中間純利益	1,029	100
非支配株主に帰属する中間純利益	192	174
親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失(△)	836	△74

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
中間純利益	1,029	100
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	66	△89
為替換算調整勘定	△745	744
退職給付に係る調整額	△57	△131
持分法適用会社に対する持分相当額	△33	△8
その他の包括利益合計	△769	514
中間包括利益	259	614
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	264	205
非支配株主に係る中間包括利益	△5	409

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,654	409
減価償却費	2,599	3,219
持分法による投資損益(△は益)	△417	△180
支払補償費	121	—
関係会社株式売却損益(△は益)	△282	—
売上債権の増減額(△は増加)	6,764	7,625
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,941	△1,463
仕入債務の増減額(△は減少)	△544	△1,507
未払金の増減額(△は減少)	△236	△363
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△31	△90
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	0	△35
返金負債の増減額(△は減少)	△506	△716
その他	△98	108
小計	7,082	7,005
利息及び配当金の受取額	212	274
利息の支払額	△22	△141
法人税等の支払額	△768	△762
その他	△35	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,468	6,375
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△6	△487
関係会社出資金の払込による支出	△1,819	—
関係会社株式の売却による収入	447	—
固定資産の取得による支出	△4,481	△5,029
その他	△263	△152
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,124	△5,669
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	△3,000	△10
長期借入れによる収入	7,000	—
リース債務の返済による支出	△111	△113
配当金の支払額	△770	△769
非支配株主への配当金の支払額	△222	△156
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,896	△1,050
現金及び現金同等物に係る換算差額	△119	154
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,121	△190
現金及び現金同等物の期首残高	7,016	10,861
現金及び現金同等物の中間期末残高	10,137	10,670

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結損 益計算書計 上額 (注) 3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
洋菓子	12,389	—	12,389	—	12,389	—	12,389
レストラン	3,037	—	3,037	—	3,037	—	3,037
菓子	—	37,483	37,483	—	37,483	—	37,483
飲料	—	1,951	1,951	—	1,951	—	1,951
その他	—	—	—	1,721	1,721	—	1,721
顧客との契約から生じる収益	15,426	39,434	54,861	1,721	56,583	—	56,583
その他の収益	—	—	—	103	103	—	103
外部顧客への売上高	15,426	39,434	54,861	1,825	56,686	—	56,686
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	157	158	228	387	△387	—
計	15,427	39,592	55,019	2,054	57,073	△387	56,686
セグメント損益(△は損失)	△950	4,209	3,258	342	3,601	△2,398	1,202

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△2,398百万円には、その他の調整額3百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,402百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結損 益計算書計 上額 (注) 3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
洋菓子	11,735	—	11,735	—	11,735	—	11,735
レストラン	2,931	—	2,931	—	2,931	—	2,931
菓子	—	40,008	40,008	—	40,008	—	40,008
飲料	—	2,932	2,932	—	2,932	—	2,932
その他	—	—	—	1,676	1,676	—	1,676
顧客との契約から生じる収益	14,667	42,941	57,609	1,676	59,285	—	59,285
その他の収益	—	—	—	124	124	—	124
外部顧客への売上高	14,667	42,941	57,609	1,801	59,410	—	59,410
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	137	138	223	362	△362	—
計	14,668	43,079	57,747	2,025	59,773	△362	59,410
セグメント損益(△は損失)	△705	3,238	2,533	294	2,828	△2,530	297

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△2,530百万円には、その他の調整額2百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,532百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 2025年7月に一部の子会社で「洋菓子事業」から「菓子事業」に業態変更を行っております。これに伴い、当該子会社で従来「洋菓子事業」に含めていた売上高、セグメント損益等は業態変更以降は「菓子事業」に含めています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。